

令和5年度自己評価表

江田島市立能美中学校

中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	現状値	各年度における目標値及び実績値				改善策
				令和4年度	目標	令和5年度（中間値→最終値）	令和6年度	令和7年度	
基礎的・基本的な知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力を育成する。	①主体的な学びを促進する。	・プロジェクト型学習の考え方を生かし、課題発見・解決学習の各過程を位置づけた単元開発と実践を図る。 ・「毎日ノート」への指導助言を行うことで、自己教育力を育む。	生徒アンケートでの肯定的回答の割合	主体的な姿勢 92.6% 見通しをもった計画 82.4% 課題意識 74.1% (3項目平均 83%)	目標	85%	87%	90%	中間値より肯定的回答の割合が向上したが、生徒アンケート「授業では、自分の考えを積極的に伝えている」という項目は75.6%で、高いとは言えない。自分の意見を積極的に伝える場面を、授業をはじめ様々な活動で設ける。また、自らの学習に見通しをもったり、学習の調整をしたりする力を付けさせるために、授業では単元のゴールを明確化し、達成に向けた計画を生徒自らに立てさせるようにする。「毎日ノート」については、個に応じて内容に工夫をさせるような指導助言を継続していく。
	②基礎・基本の定着を図る。	・各教科において、基礎・基本定着のための取組を工夫する。 ・単元ごとに到達度を把握し、その改善を図る。	江田島市小中学校学力調査の各教科で目標値を上回った教科数	1・2学年計10教科のうち、上回ったのは5教科	目標	5教科	8教科	10教科	
豊かな心と社会性の育成を図る。	③「時を守り、場を清め、礼を正す」取組を推進する。	・生徒会自治活動を中心として、「aノーチャイム」「b黙動清掃」「c立腰・黙想」「d挨拶」の活性化を図る。	生徒アンケートでの肯定的回答の割合	a ノーチャイム 95.1% b 黙動清掃 89.3% c 立腰・黙想 95.9% d 挨拶 95.1% (4項目平均 93.9%)	目標	95%	98%	100%	生徒指導部 4項目の平均は中間評価よりも向上したが、目標値には届かなかった。今後も、自治活動が基本となる生徒委員会での活動を充実させる必要がある。特に、立腰・黙想、でポイントが低下しているため、この項目を委員会目標に据え、生徒に考えさせながら自主的な取組を仕組んでいく。また、学年別に見ると、1学年のアンケート結果が低いという特徴があるため、教職員が肯定的な評価を行いながら、やりきらせる指導を継続的に行っていく。 特に、活動開始時や終了時の立腰・黙想、挨拶がしっかりできることは各活動の充実にもつながるものである。c、dの結果を受け止め、教員自らの率先垂範を生徒会活動での自治活動と並行して取り組んでいく。生徒アンケートの質問内容については、より明確な実態把握をするために検討する必要がある。
	④特別活動の充実を図る。	・学校行事等の目的を再確認し、生徒と共有し、精選と充実を図る。	生徒アンケートや保護者アンケートでの肯定的回答の割合	生徒 93.4% 保護者 95.4%	目標	生徒 98% 保護者 98%	生徒 100% 保護者 100%	生徒 100% 保護者 100%	
					実績	生徒 89.9%→94.7% 保護者 97.0%→96.6%			

江田島市小中学校学力調査 (R5.12実施)

1年	国	社	数	理	英
目標値	57.3	58.3	56.4	60.5	54.4
本校	67.7	48.6	63.2	63.6	47.4
差	10.4	-9.7	6.8	3.1	-7.0

  

2年	国	社	数	理	英
目標値	63.5	46.0	52.8	56.8	50.2
本校	72.6	42.2	47.0	63.1	52.4
差	9.1	-3.8	-5.8	6.3	2.2

健やかな体の育成と体力の向上を図る。	⑤ 体育的活動を充実させ、体力を向上させる。	・保健体育授業科の改善と共に業間運動や体育的行事の充実を図る。 ・部活動指導員を拡充し充実を図る。	「仲間と楽しく体を動かすのが好き」についての生徒の肯定的回答の割合	「運動やスポーツは好きだ」 生徒 73.8%	目標	80%	85%	90%	保健体育の授業や業間運動においてペア活動やチームで活動しその振り返りをする等、協働的な活動に取り組んできたことが成果として示されたと思われる。現状に満足することなく、今後は楽しさの中で体力が高まるよう、保健体育の授業と業間運動や部活動と関連させた活動をする等、指導の改善を図っていきたい。また、自分や仲間の心身の変化に気づき、自ら行動したり調整したりできるように成長させたい。
					実績	「仲間と楽しく体を動かすのが好き」 生徒 86.2%→91.2%			
組織の機能化と業務改善により、やりがいのある職場環境をつくる。	⑥ 時間外勤務の縮減に向けた業務改善を行う。	・定時退校日の完全実施（水曜日）を図る。 ・行事や会議のスリム化、また、時程の工夫等により、生徒と向き合う時間の確保を行う。	教職員に対する「やりがい」についてのアンケート肯定的回答  在校時間月 80 時間超の人数	教職員 95%  のべ 22 人	目標	100% 17 人	100% 13 人	100% 10 人	教職員アンケートにおいて、「やりがい」の項目の肯定的回答の割合は 90%であり、概ねやりがいを感じていることが分かる。また、在校時間月 80 時間超の人数は最終値も 0 人であった。今後も教職員とのコミュニケーションを通して、各々の思いや困り感に寄り添ったり、教職員の業務の進捗状況を把握し、必要に応じて業務の分担の見直しや進捗調整等を行ったりすることで「やりがい」や「充実感」を得られるようにしていく。また、教職員の頑張りを学年や分掌の中で評価し合ったり、外部へ発信したりしていく。
					実績	教職員に対する「やりがい」について 88.9%→90% 在校時間月 80 時間超の人数 のべ 0 人→0 人			